

令和6年8月5日

【照会先】

健康・生活衛生局

感染症対策部 感染症対策課

(担当・内線) 横田 (2389)、佐野 (2373)

(電話・代表) 03(5253)1111

第2回 薬剤耐性 (AMR) に関する記者勉強会のお知らせ

薬剤耐性 (Antimicrobial Resistance: AMR) について十分な対策が実施されない場合、「2050年までに全世界で毎年1,000万人が、抗生物質が効かない細菌 (薬剤耐性菌) による感染症で死亡し、がんによる死亡者数を上回る」と報告されています (オニールレポート)。また、世界保健機関の2023年11月の発表では、2019年の薬剤耐性菌感染症による死亡者数は、全世界で127万人に上ったと推計されております。弊省としては、AMRは社会が一丸となって向き合わねばならない喫緊の課題と認識しています。

しかしながら、「身近に感じられず現実感がない」「AMRの話は難しい」などの理由から認知度が低い状態です。そこで、医療現場でAMRが引き起こしている事柄、現場でAMRと戦う医療従事者の声、政府が現在推進している施策などを、様々なメディアを通じて国民の皆様にお届けできないかと考えています。

つきましては、日々報道に携わる記者の方々向けに、AMRについての理解を深め、広く情報を発信していただくことを目的とした勉強会を開催します。勉強会の内容につきましては「目次」をご覧ください。多くの関係者の方々にご参加いただけましたら幸いです。

開催日時 : 令和6年8月26日(月) 14:30 ~ 16:00 (質疑応答込み)

開催方法 : Zoomを使用したWEB会議形式で実施します。

【留意事項】

- ・ 勉強会に参加をご希望の方は **8月19日(月) 17時まで**に所属会社 (媒体名)、参加者氏名及び連絡先 (電話番号) を明記の上、<申込先>までお申し込みください。
 - 上記申込期限後も受付いたしますので、積極的にお申し込みください。
 - お申し込みは報道関係者の方に限らせて頂きます。
- ・ WEB会議のURLは勉強会開催時刻までにメールにてご連絡いたします。
<申込先> 感染症対策課 広報担当 [mail: amrbenkyoukai@mhlw.go.jp](mailto:amrbenkyoukai@mhlw.go.jp)

第2回 薬剤耐性(AMR)に関する記者勉強会 目次

※今回は「対策」を中心にお伝えします。

① インTRODakション及び厚労省の施策	(20分)
国としての AMR 対策の基本方針である「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」について、枠組み、目標を説明いたします。また、新規抗菌薬開発を支援する施策や、医療機関の AMR 対策を促進する施策について説明いたします(市場インセンティブ、診療報酬加算など)。	厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課 課長補佐 亀谷航平
② AMR 臨床リファレンスセンターの活動	(20分)
医療機関で使用された抗菌薬の量や種類をモニターし、抗菌薬の適正使用につなげる仕組みについて解説いたします(J-SIPHE、JSAC、AWaRe 分類など)。	国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター 臨床疫学室長 松永展明 先生
AMR 対策では全ての人が、それぞれの立場で行動変容を起こすことが重要です。一般向け、医療従事者向けなど、各セクターに向けた普及啓発・教育活動について解説いたします。	国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター情報・教育支援室長 藤友結実子 先生
③ 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センターの活動	(20分)
医療機関での細菌検査データを全国的に収集し解析することで、各病院での AMR 対策に役立てるシステムについて解説いたします(JANIS、ASIARS-Net など)。	国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター 第二室 室長 矢原耕史 先生
ヒトだけでなく動物や環境も含めたエコシステム全体で AMR 対策を実施する必要がある、というワンヘルス・アプローチについて解説いたします。	国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター 第三室 室長 鹿山鎮男 先生
④ 質疑応答	(最大 30分)

※ 「目次」記載の内容はあくまで予定であり、変更する場合があります。

※ 配信内容は録画を行い、期間限定で厚生労働省のホームページにて限定公開する予定です。

以上